

2020-21年度第2回ロータリー財団セミナー及び2021-22年度 補助金管理セミナーにおける質問事項と回答

Q	A
プロジェクト実行中及び報告時のご留意事項はどこからダウンロードできますか？	第2750地区ロータリー財団補助金委員会のページから「2021-22補助金管理セミナー地区補助金支給基準」をダウンロードしていただけます。
オリンピック・パラリンピックに関する奉仕活動を考えていますが、このコロナ禍、実施できるかどうか不透明であります。また現状、例会を実施できていないクラブ様が多い中、4月申請開始6月締切には無理があるように思われます。本年度のように申請時期を6月から開始するなどの対応をしていただけないでしょうか。	2021-22年度に関しましては、4月1日から6月30日までの申請といたします。コロナの状況によってロータリー財団の情勢が変化した場合はその時点で判断いたします。
ここ数年、地域内の小学生を対象とした少年少女サッカー大会を開催しています。大会の参加選手は毎年同じ小学校のある学年を対象としており必ず選手が変わります。この場合、今回の変更の対象になりますか。	次年度の「授与と受託の条件」のルール変更により、同一地域内でのプロジェクトには、2年連続でお使いいただけません。ただし、学校そのものに対して行うプロジェクトで、対象の学校が変わる場合は、同一地域内であっても申請していただけます。
少年野球大会の大会の優勝カップ等を少年野球連盟に寄贈する場合、贈与にあたり、補助金申請は不可となりますか。	少年野球連盟に保存されるもの、備品や再利用されるもの等は補助金対象外です。寄贈先の学校に贈呈されるものは、受益者は学校となりますので、補助金をお使いいただけます。
今年度申請した事業が中止になり、一部支出があった場合、次年度も申請できますか。	2020-21年度で完了していないプロジェクトは2021-22年度の地区補助金申請をしていただけます。
海外の国の支援先が建物の建築を希望されています。土地および建物の購入目的には補助金が適用にならないとありましたが、「授与と受託の条件」の中で建設には地区補助金が使用できるとありましたが、建築に地区補助金を適用することはできますか。	建物の建築については、地区補助金はご活用いただけます。グローバル補助金では建物の建築はできません。
2019-20年度でDGを使用してある国のNPOを支援をしました。2021-22年度で同じNPOと協力してGGを使用したプロジェクトを計画しております。現地のクラブとも連携が取れておりますが、GG使用は可能でしょうか。	グローバル補助金については、留意事項及び確認すべき内容が多岐にわたりますので、プロジェクトの立案時にぜひ補助金委員会にご相談ください。
これまで地域の中学校の活動をサポートしてきました。今後2年続けて同じ団体への援助に補助金が利用出来ないとのことですが、例えば今年度のサポートに補助金が使えない場合、翌年度は使うことは可能でしょうか。	2020-21年度に行っていないプロジェクトは、2021-22年度のプロジェクトに地区補助金をお使いいただけます。可能な限り
ロータリアンが運営する児童養護施設の子どもたちを受益者とし、第三者である業者への発注により、子どもたちのための機器などを寄贈することは、支給条件や利害対立の問題に抵触して認められないでしょうか。	まずロータリアンが運営する団体や法人に対しては、原則補助金をお使いいただけません。また、プロジェクトはロータリークラブが主体となって行う必要がありますので、第三者への金銭の寄贈に補助金をお使いいただけません。
地区補助金を使って医師会に医療用品を寄附したいが会員にロータリー会員がいる場合はどうですか？	医師会の運営に関わるものや医師会の備品や設備に関わるものは補助金対象外ですが、医師会を通じて、病院や施設等にマスクや医療品等を提供することは、補助金の対象です。
奉仕プロジェクト用の銀行口座はインターネットバンキングでもよろしいですか？	ネットバンキングの口座も開設いただけますが、セキュリティのレベルの高い信頼できる銀行での開設にご留意ください。
小学校などへの寄贈で、同じプロジェクトを異なる小学校へ、という方法は許可頂けますでしょうか。	学校そのものに対して行うプロジェクトで、対象の学校が変わる場合は、同一地域内であっても申請していただけます。
数年前に行った同じ事業に対しても、地区補助金申請は出来ないのでしょうか？	数年前の事業は同一プロジェクト範囲外ですので、補助金を申請いただけます。
昨年度までで連続3回、地域に寄贈しています。今年度は地域内の日本赤十字病院へ寄贈しました。来年また同一地域の施設に寄贈することはできますか？過去に寄付した先へはもう寄贈することはできないのでしょうか。どうぞご教示ください。	次年度の「授与と受託の条件」のルール変更により、同一地域内でのプロジェクトには、2年連続でお使いいただけませんが、寄贈先が同一地域の日本赤十字病院以外であれば、同一地域内であっても申請していただけます。また使途指定の寄付を地域に行い、結果的にその地域が日本赤十字に寄贈するなどは同一団体へのプロジェクトになりますので、ご注意ください。
2021-2022年度以降、同事業に関して申請できないという事でしょうか？	次年度の「授与と受託の条件」のルール変更により、同一地域内でのプロジェクトには、2年連続でお使いいただけなくなりました。次々年度以降に関しても「授与と受託の条件」に変更がない限りこの条件は継続いたします。
将来的な地区補助金支給基準を教えてください。	将来的な変更については不明ですが、「授与と受託の条件」は、毎年変更の可能性がります。
地区補助金は何故継続的支援が認められないのか？	以前から「授与と受託の条件」では、同一のプロジェクトや同一の団体に対しての過度の支援を補助金適用外としていましたが、新しい「授与と受託の条件」では、さらに同一地域に対して適用外とさらに範囲が広がりました。地区補助金及びグローバル補助金はこの「授与と受託の条件」が支給基準となっております。
グローバル補助金の説明で 援助国のDDFが30%を超えるという説明がありましたが、DDFの意味を説明してください。	DDF (District Designated Fund) は、地区財団活動資金で、3年前の地区の寄付金額に応じて、その50% (現年度) がDDFとして地区に戻ってまいります。DDFは地区内の財団の活動に使える資金で、このうち最大50%を地区補助金に利用することが認められています。ちなみに、3年前の寄付金額の残りの50%はWF (World Fund) として、世界中で利用される資金となります。
GGの実績報告がありました。実施国側からTRFで承認され、現地で贈呈式も行われたプロジェクトは、実績に含まれているのでしょうか。	第2750地区のロータリー財団セミナーでのGGの実績報告については、申請書作成中／提唱者/地区の承認待ち/TRFの承認待ちの3つのパターンを報告しております。